

2018年度 年間読書指導計画

1. 図書館 読書指導の指針

- (1) 本図書館の読書指導は、創立理念「愛と正義に根ざした社会へ変革することに貢献できる人間の育成」の下、全学で行われている全人教育に資するものとし、生徒の知性、感性、情操、道義心、教養、社会性を育み、柔軟で均衡性を持つ理性を涵養することに努める。
- (2) 読書指導によって、個々の生徒が、学習・進路選択・人格形成における自分の課題に主体的・積極的に取り組む意欲・能力・行動力を培うことを促進する。

2. 指導目標

- (1) 知の体系における各書物の位置について学び、書物に対する選択眼を養う。
- (2) 多様な文化について学び、日本社会及び国際社会に通用する教養を身につける。
- (3) 人権問題を始めとする現代社会の諸問題について知見を広め、人道に則った考え方と行動の基礎となる理性と判断力を培う。
- (4) 宗教・哲学・思想についての学びを広げ、自らの内面を高める力を養う。
- (5) 自分の使命について考え、自らの進路を主体的に選択し実現する力を伸ばす。
- (6) 授業等の教育活動における学習を発展・深化させ、教科横断的に把握・考察し表現する力を培う。
- (7) 様々な趣味を嗜み、知的好奇心を養い、学校生活・日常生活を豊かにし、人間形成の一助とする。

3. 各学年の目標

中1	・図書館に親しみ、名著・名作の原作を読む・読書の習慣を確立する ・知的好奇心を持ち、教養を高める
中2	・読書の多様化 ・視野を広げる ・古今東西の多様な領域の名作を読む
中3	・図書等の資料の探索力を養い、目的に応じて選択する ・自分の将来、使命を考え、その実現のために図書から積極的に学ぶ ・新書や一般書を読む力をつける
高1	・読書の質を高める ・人類の文化の流れを知り、その中における個々の書物の位置を理解する ・社会問題や学術についての入門書を読む
高2	・読書の質を広げる ・人類及び自己の本質の探究の営みの一つとして読書を取り入れ、思索行為の一助とする ・個々の進路に応じた読書を行う
高3	・幅広い領域の本を読む ・著者や書物、作品に応じた読解と思索・鑑賞を行い、主体的な読書を展開する ・他者に目を向け、世界の在り方、将来像を考え、卒業後の学業や将来の仕事等、自己の生き方の選択と発展に活きる読書を行う

個別のレファレンスは生徒のレベルと志向に応じつつ、各学年の目標のレベルの達成を目指す。

4. 年間指導計画表

別紙「2017（平成29）年度 図書室の利用と読書の年間指導計画（授業利用を含む）」参照

